



りんご生産情報（5月号）

令和6年5月21日
北地区営農係

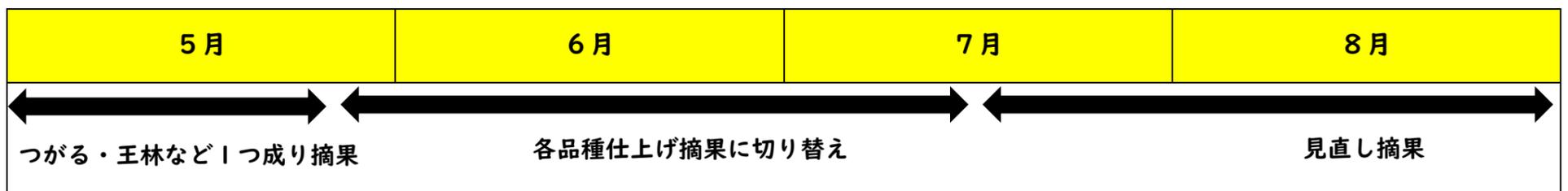
1、ふじの生態

管内ふじの生態は落花日で5/6と平年より11日早く経過しました。

地点	開花日	満開日	落花日
中崎（平場）	4/27	5/1	5/6
住吉（中間）	4/28	5/1	5/6
弥生（山手）	4/30	5/2	5/8
管内平均	4/28	5/2	5/6
農協平年	5/8	5/13	5/17

2、摘果作業

摘果作業は、栽培期間の短い早生種（つがるなど）と摘果が遅れると肥大が劣る黄色品種から始めましょう。なお、果実形質の判別ができ次第、仕上げ摘果へと切り替え、早めに着果量の調整を行いましょ。なお、マイクロデナポンを散布したところでは効果が判別できるまでおよそ2週間程度かかります。



3、薬剤散布

平均気温は今後平年並みに経過する見込みです。害虫の発生は平年より早まっています。（下記表を参照）引き続き、黒星病の重点防除時期となります。「散布間隔は10日以内で降雨前散布」を徹底し防除を行いましょ。

回数 (散布量)	散布時期 (散布日)	対象病害虫	薬剤名 及び調合順序	倍数	1000ℓ 当り薬量	防除上の注意
4回目 420L	ふじの 落花10日後頃 (5月18日頃)	黒星病・褐斑病 斑点落葉病	ユニックス顆粒水和剤 チオノックフロアブル ネオミクス	2,000倍 500倍 250倍	1袋 2L×1本 1袋	※落花10~20日の期間は クワコナカイガラムシの 防除適期です。発生が多い ところではアプロード(F) 1,000倍を使用しましょ。
5回目 420L	ふじの 落花20日後頃 (5月28日頃)	黒星病・黒点病 斑点落葉病 クワコナカイガラムシ ナシヒメシンクイ	デランフロアブル エルサン水和剤 ネオミクス	1,500倍 1,000倍 250倍	2本 1本 1袋	
6回目 500L	ふじの 落花30日後頃 (6月7日頃)	黒星病・炭そ病 斑点落葉病 シンクイムシ類	ラビライト水和剤 サイアノックス水和剤 ネオミクス	500倍 1,000倍 250倍	2袋 2袋 1袋	
7回目 500L	ふじの 落花40日後頃 (6月17日頃)	黒星病・黒点病 斑点落葉病 モシクイガ・アブラムシ類 ハダニ類	ジマングアイセン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダニオーテフロアブル カルマツチ	600倍 4,000倍 2,000倍 770倍	1袋 1袋 2本 1袋	

○病害虫の動き（りんご研究所）

5月8日現在

モニリア病	葉腐れ初発（本年：4月23日 平年：4月26日） まもなく実腐れがみられる（平年：5月20日）
黒星病	葉の病斑初発（本年：5月7日、平年：5月11日） 子のう胞子飛散中、分生子の2次感染始まる
リンゴハダニ	越冬卵からのふ化ほぼ終了（ふ化初発 本年：4月26日 平年：5月1日）
クワコナカイガラムシ	まもなく越冬世代幼虫の移動が始まる（移動初発 平年：5月20日）
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化継続中（越冬世代成虫初発 本年：4月23日 平年：4月26日）

4、袋かけ作業

袋かけは薬剤散布後5日以内を目安に行い、間隔が空いた場合はチオノックF Lなどの殺菌剤で実洗いを行いましょ。また、本年はりんごの生態が早いため、ツル割れの発生が懸念されます。有袋栽培にすることで、つる割れの発生が軽減できるほか、良品果率の向上にも繋がりますので積極的に袋かけを行いましょ。

〈りんご袋新規資材〉

袋屋	種類	特徴
増田屋 袋店	銀河2重袋 8切（青・赤）	紙質が柔らかいりんご袋。外紙が灰色で、袋内ヤケなどの高温障害の軽減が期待できる。

